

# 研究実施のお知らせ

2026 年 4 月 30 日 ver.1.0

## 研究課題名

島根県における小児外科医療の集約化と地域別受療率の変遷

## 研究の対象となる方

2016 年 1 月から 2025 年 12 月の間に島根大学医学部附属病院小児外科で治療を受けた 14 歳以下の方

## 研究の目的・意義

### 【背景】

小児外科医療は全国的に拠点病院への「集約化」が進んでいます。島根県では島根大学医学部附属病院に県全体の症例が集約されていますが、東西に長い地形や離島の存在により、居住地域によってアクセスに大きな格差が生じている可能性があります。

### 【目的】

本研究は、過去 10 年間(2016 年～2025 年)の島根県内全自治体の症例数と人口統計を用い、以下の 2 点を明らかにすることを目的とします。

1. 地理的要因の解析：島根大学医学部附属病院(拠点病院)からの距離が、地域ごとの受療率(人口あたりの症例数)にどのような影響を与えているか。
2. 時系列的推移の解析：少子化やパンデミック(covid-19)を経て、地域の医療需要がどのように変化したか。

### 【意義】

- 学術的意義：「拠点病院への集約化」が、周辺地域の潜在的な医療ニーズを抑制(距離減衰効果)していないかを定量的に証明できる。
- 社会的意義：安来市や益田市など、隣接県への患者流出が疑われる地域の受療実態を可視化することで、県境を越えた広域医療連携の必要性を提示できる。
- 政策的意義：今後の人口予測と照らし合わせ、将来にどの地域で

医療アクセスの維持が困難になるかを予測し、  
巡回診療や遠隔医療などの対策立案に貢献できる。

## 研究の方法

### 対象データ

- ・症例データ：2016 年 1 月～2025 年に島根大学医学部で実施された  
小児外科手術・処置件数(延べ件数)
- ・人口データ：島根県統計による各年・各市町村別 15 歳未満人口

### 解析項目

- ・受療率の算出：各自治体の「年間症例数÷15 歳未満人口×1000」を算出し、  
地域ごとの医療需要を標準化
- ・地理的相関分析：出雲市(拠点)から道路距離と受療率の相関を算出
- ・トレンド解析：10 年間の受療率の変化を、県全体および圏域別に解析

## 研究の期間

2026 年 06 月 24 日～2030 年 12 月

## 研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します

### 研究責任者：

島根大学医学部消化器・総合外科学講座 石橋 脩一

## 情報利用の停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2026 年 12 月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

## 相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

### 研究責任者：

島根大学医学部消化器・総合外科学講座 石橋脩一

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2232 FAX 0853-20-2229